

イベントの実施を組み込んだ授業

宮地 克昌（東京観光専門学校 観光サービス学科／福山大学人間文化学部 客員教授）

キーワード：震災復興、パブリシティ、花ツーリズム、市民協働

1. 目的

専門学校においてイベント関連業界への就職後に即戦力になる人材を育成するため、昨年2011年度の授業の一環として「東日本大震災“花緑”復興」をテーマに、子供たちや地元の人たちと協働してイベントを実施することで、学生の反応や成長を観察し、イベントに関する実践教育のあり方について研究した。

2. 方法

1年生の授業でイベント・マネジメントの知識と、イベントやテレビ番組などの制作の現場で使用されている用語の知識とを教えながら、「東日本大震災復興」をテーマにしたイベントの企画書をパワーポイントで作成させた。

「表紙」「はじめに」「概要」「全体スケジュール」「会場」「当日スケジュール」「実施体制／作業分担」「準備物リスト」「スタッフコメント」「連絡先リスト」「ユニフォーム」などのスライドを加工しながら、イベントの企画書をそれぞれの学生が自分で作成できるように指導した。

そして、①新宿区の神楽坂で毎年行われている「神楽坂まち飛びフェスタ2011」の参加イベントと、②被災地に水仙の球根を植えて被災者を元気づけると共に、観光を活性化させることで被災地を支援するイベントとの二つを実施した。

- ① 「神楽坂まち飛びフェスタ2011」の参加イベントでは、空き缶を利用して「いっしょ@日本」というメッセージを地元の子供たちと一緒に公園の地面に描いた。

タイトル: 神楽坂の元気を被災地へ「復興応援地上絵メッセージ」

ペコちゃんと一緒にいっしょを応援しよう!!!”

日時: 2011年11月3日(木・祝) 13:00～

会場: 白銀公園(東京都新宿区白銀町3)

参加者: 地元の子供たち(約100名)

主催: 東京観光専門学校 観光サービス学科

協賛: ゼブラ株式会社、不二家飯田橋神楽坂店

後援: 新宿区白銀町町会、イベント学会

協力: 株式会社不二家、新宿区シルバー人材センター



- ② 被災地に水仙の球根を植えるイベントは、「Harmony with Nature for the Future」から「HaNaFu: 花譜(はなふ)」と命名した。東北地方にある唯一の国営公園「国営みちのく杜の湖畔公園」で、「希望」の象徴でもある水仙の球根をナスカの地上絵のように一筆書きでデザインした不死鳥(フェニックス)の形に植えた。球根の数は、この震災で亡くなられた方と行方不明の方のために約2万球とした。

タイトル：水仙で復活する地上絵

実施日：2011年11月18日（金）・19日（土）

会場：国営みちのく杜の湖畔公園（宮城県川崎町）、七ヶ浜町菖蒲田浜海浜公園

主催：財団法人公園緑地管理財団みちのく公園管理センター／東京観光専門学校

参加者：125名（学生30名、JTB30名、公園緑地管理財団20名、現地参加者45名）

企画：学校法人東京観光専門学校

ツアー主催：株式会社ジェイティービー

協賛：アサヒビール株式会社、株式会社サカタのタネ

協力：宮城県観光連盟、国営備北丘陵公園、讃岐まんのう公園、株式会社昭栄美術

後援：イベント学会

※使用テキスト：

「イベント・マネジメント」（日本イベント産業振興協会2004年）

「日中英イベント用語事典」（シミズオクト編2008年）

3. 結果

実施を前提にしたイベントであるため、協賛や後援の依頼、著作権の処理、関係各所との調整など、「渉外」に関して、授業中に実際に電話で交渉したり、一緒に同行してもらったりするなどによってリアルに教えることができた。また、実施後に新聞に掲載されたことで、学生も改めて充実感を味わうことができた。



東京新聞20111104朝

「花譜」関連新聞掲載

- ・毎日（宮城）20111119朝
- ・読売（広島）20111110朝
- ・西日本20120123朝
- ・西日本20120408朝
- ・読売20120419朝
- ・毎日20120421朝
- ・河北新報20120423朝
- ・産経（香川）20120127朝



河北新報20111119朝

4. まとめ

自分たちの手でイベントを企画・実施することで、学生に自信を与えることができた。この結果を参考に、2012年度も被災地に水仙の球根を植える活動を続けていく予定である。2013年は、支倉常長が1613年に石巻を出帆してから400年になるので、そのイベントとの連携も検討する。

以上